～広報たかつき～

知る　広がる　好きになる

たかつきDAYS

レトロ建築

ヴォーリズもある！
高槻レトロモダンを訪ねる。

11
No.1332

大阪医科大学 別館（歴史資料館）

イスラム様式の意匠に心ひかれる高槻のヴォーリズ建築

大阪医科大学の前身である大阪高等医学専門学校の講堂として、昭和5（1930）年、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計で本館、解剖館とともに竣工した。学舎の建て替えが進むなか、この別館だけが残され、平成15（2003）年に高槻市初の国の有形文化財として登録。平成18（2006）年には復元再生して、歴史資料館として広く一般にも開放され、市民や熱心なヴォーリズ建築ファンなど多くの人が訪れている。

特長は階段式の教室（階段講堂）と講堂を一つの建物にまとめた合理的な設計と、インドサラセン様式を採り入れた個性的なデザイン。日本が国力を伸ばし世界へ目を向け始めた時代、「医学研究の成果を医療に生かす」「海外でも活躍できる医者を育てる」という設置目的と、古代ギリシャとともに医学のルーツとなった中世イスラム世界が原点となっているという。

木々の奥に建つ箱型の建物に心ひかれ、近づくと、随所にあるイスラム風の装飾に圧倒される。見れば見るほど味のある建物で、見ているうちに親しみが湧いてくる。中に入ると、大学らしい知的な雰囲気が漂うが、階段の上り口や壁の仕切りに使われているカーブのデザインが優しいアクセントを与えている。ヴォーリズは校舎にも、居

アーチやアラベスク装飾などを用いたイスラム風の様式だが、モスクの尖塔（せんとう）のような形も鋭くとがっておらず、どこかぬるい感じがヴォーリズらしい。壁はモルタルに竹のささらで掃きつけた立体感のある仕上げで、天気の良い日は陰影がはっきりと出て表情豊かだ

●高槻市大学町2-7 TEL.072・684・6738 ●JR高槻駅下車徒歩約8分または阪急高槻市駅下車徒歩約3分
●開館時間:9時30分～16時（入館は閉館の30分前まで）、土日祝・大学の休業日は休館 ●見学入館料無料（要事前連絡）

線彫りのスクラッチタイルは、この時代にアメリカから日本に流行が伝わった外壁だが、市松やイゲタにも近い和風のパターンを採り入れているところが個性的だ

ヴォーリズの建築

ヴォーリズ建築研究者
大阪芸術大学 建築学科教授
山形政昭さん

明治38（1905）年にアメリカから来日したウィリアム・メレル・ヴォーリズは、滋賀・近江八幡を拠点にキリスト教活動を行い、建築設計はその事業のひとつでした。ヴォーリズ記念病院、大丸心斎橋店など約100カ所が現存し、住民などによる保存活動が各地で行われています。

特長は、建物の目的に沿った合理性・機能性の高さと、その建築物の意味がなじみやすい表現で伝わるということでしょう。大阪医科大学でいえば、授業を行う階段講堂とセレモニーのための講堂という機能の違うものを別々のフロアに分け、シンプルで使いやすくしています。また、医学とイスラム文化のつながりを知り、イメージが広がるような意匠にしています。

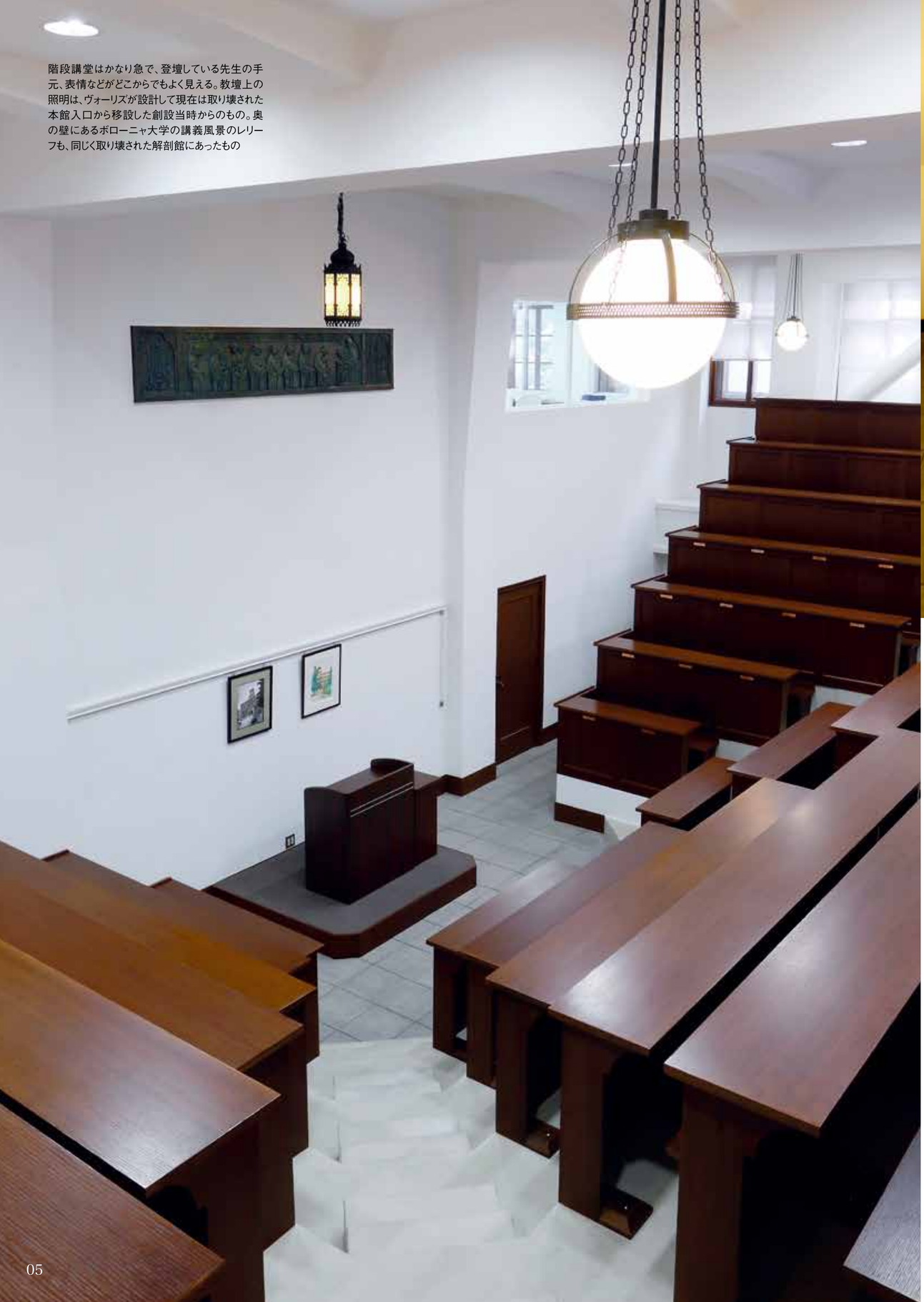
当時はモダニズムといわれる抽象的な表現が先端でしたが、いずれ変化するものだと、ヴォーリズはあまり好みませんでした。戦前の、豊かに開花した都市の文化を反映した建物群は「ヴォーリズ建築」とまるで建築様式のように呼ばれ、今なお多くの人を魅了し続けています。

山形教授に聞く

レトロ建築の楽しみ方

どこかで出会ったような懐かしさが湧いてくるのは、建築が市民のものになり、昭和初期の近過去ということもあって昔見たような親近感を呼び起こすからでしょう。本物の素材や手仕事が多く使われている建物を体で感じれば、当時の暮らしや風景が思い浮かび、より楽しめるでしょう。

- 「全体から部分へ」を基本に、視点を変えながら
- 外観は建物全体を正面から眺め、プロポーションに注目した後、外壁の素材、デザインをじっくり
- 内部は部屋全体を見てから、ステンドグラスや窓装飾、照明などへ
- 階段をゆっくり上り下り、窓から外を眺めるなど、建物らしさを体感



階段講堂はかなり急で、登壇している先生の手元、表情などがどこからでもよく見える。教壇上の照明は、ヴォーリズが設計して現在は取り壊された本館入口から移設した創設当時からのもの。奥の壁にあるボローニャ大学の講義風景のレリーフも、同じく取り壊された解剖館にあったもの

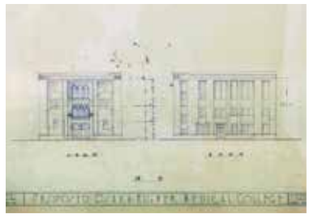
機械ではなく、職人が道具を使って手仕事をした味のある手すり。先が外側に広がっているのは、多くの学生が一度に行き来しても混雑しないようにという配慮とか

住空間としての温もりや快適さを追求したというが、確かにそんな感じだ。一方、2階が吹き抜けになった階段講堂に入ると、教室のすべての視線が教壇に集中する緊張感にあふれた授業の風景が浮かんでくるよう。こちらは学びの場としての品位や威厳が感じられる空間を演出したのだろうか。ヴォーリズらしい工夫が凝らされた建物は、どこを見ても興味深い。

解剖館にあったものを復元した階段講堂のステンドグラス。アラベスクモザイクをもとにしたデザインで、同色で再現するのが難しかった欠けた部分には似た色を探し出したとか

アーチ型の窓や天井が、鉄筋コンクリートだが木造住宅のような優しさが感じられる建物に

2階には昭和20年代の電子顕微鏡や、近年のカラーリングした特注顕微鏡ほか、顕微鏡を体験するコーナーも



ヴォーリズ建築の魅力を高槻でたっぷり味わってください

大阪医科大学歴史資料館
館長 佐野浩一さん

日本初の五年制医学専門学校として開設された本学は、当時の町長が高槻近辺の発展のために、京大農場、阿武山の観測所などとともに誘致した文教施設でした。ヴォーリズの個性がにじみ出している外壁、当時の医学教育の現場の雰囲気が伝わる階段講堂はいつ見ても飽きません。市民講座、琵琶やハーモニカの演奏会のほか高槻ジャズストリートの会場になるなど、地域にも開放しています。

ちょっと寄り道

阪急高槻市駅を南に少し歩けば、また違った魅力のレトロ建築が。

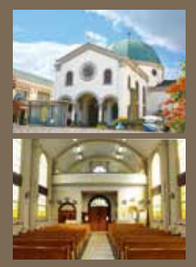
カトリック高槻教会

異国の街角のような青い屋根のドーム聖堂

キリシタン大名として名をはせた戦国時代の高槻城主、高山右近を記念して昭和37年に建てられた聖堂がある。キリスト教を禁じた江戸幕府により追放された右近が生涯を終えた、フィリピン・マニラ郊外のアンティポロの聖母大聖堂がモデルという。

青いドーム屋根、花の形のステンドグラスをはめ込んだ丸窓など、思わず写真に収めたくなる魅力的な外観。内部にも円柱のレリーフや美しいステンドグラスなどがあり、天気の良い日は色ガラスを通した日の光で室内が黄金に染まって美しい。

庭にはクラレチアン修道会の総長から贈られた大理石の高山右近像が祈りをささげている。



※13ページの関連記事も合わせてご覧ください

スケール感のある重厚な大きな扉を入った玄関ホールでもさらに円柱が迎えてくれ、研究所の威厳を感じさせる。奥の階段から、上階、塔へと上っていく

京都大学 阿武山地震観測所

日常にはちょっとない感覚が味わえる山頂のレトロサイエンスな研究所

開設された昭和5（1930）年から地震研究の拠点として活躍する現役研究所。大阪府の近代化遺産に指定されている建物は、建設計画を立てた初代所長・志田順氏が、留学で感銘を受けたドイツの研究所をお手本にしたという。斜面に3階建てと2階建ての建物と塔が立体的に構成された立ち姿がまずかっこいい。よく見ると、窓の形は四角だけでなく丸や角丸などさまざまで、玄関ホールでは円柱が神殿みたいに何本も建っていてパワースポットのような風情がある。

平成26（2014）年に耐震改修を行ったが、できるだけ昔のままの雰囲気を残すという方針で、窓枠は木からアルミに変えても壁などは極力塗り直しを避けた。歴史の重みをそこまで大切にするわけは、地下に保存展示してある100年以上前から現在までの地震計を見るとよくわかる。地震のしくみを解明し続けてきた熱い研究者魂が、長年刻まれてきた建物なのだ。

塔は高く、階段を上りながら自分の小ささを感じるほどの迫力。階段を上った先にある建物屋上から大阪平野を眺めると、その広さに思わず声がもれる。レトロ感とともに印象的な風景がたくさん見られる素敵な建物だ。

阿武山に連なる通称、美人山の山頂にすっくとそびえる白い塔は、高槻市や周辺地域、電車の車窓からも目立つ。「生まれた時から見ていて、一度入ってみたかった」という見学者も多いとか。玄関には異空間へと誘う巨大な12本の柱。期待感でワクワクする

塔の内部の階段は上に行くほど少しずつ幅を狭めており渦巻状に見える。壁面に細かな窓が区切ってある繊細なデザインが魅力だ

建物の屋上からは、条件が良ければ、あべのハルカス、淡路島や神戸の街並みまで臨める

欧米から輸入した地震計、日本の地震に合わせて独自に開発した地震計など地震研究の歴史がわかる展示。写真は2代目所長が開発、世界に1台しかない佐々式大震計

設計者は、大学施設などに作品の多い大倉三郎。東西2棟とそれらをつなぐ玄関棟は、床のレベルを細かく変え、地形に沿わせて設計されている。本館棟は、よく見ると、少しずつずらした凝りに凝った構造。各階の窓は縦にひとつながりに見えるよう、最上階だけが角丸のデザインになっている

シンプルな中にこだわりのデザインを発見するのが楽しい

阿武山地震観測所サポーター※（建物担当）
溝口宏一さん

この建物の魅力のひとつは、デザインや色調へのこだわりです。とくに窓はさまざまなデザインが楽しめます。外観のアクセントになっているレンガの明るい茶色は、ドイツの研究所があった街並みの屋根の色に似ています。「プリンセス・トヨトミ」など映画やテレビドラマの舞台にもなった戦前の建物らしい空気感を楽しんでください。

※館内ツアーの案内やイベントを手伝い、地震研究についてわかりやすく伝えるボランティアスタッフ

●高槻市奈佐原944 ●名神高速道路茨木ICより約20分またはJR高槻駅・摂津富田駅から市営バス公団阿武山循環行き「大和」下車徒歩約15分
●内部の見学は定期的に実施される見学会でのみ可能（無料／要事前予約）、申し込みは専用電話（自動音声受付）050・3171・7944 もしくは http://abuyama.com にて
●見学会のプログラムは地震学の歩みミニ講座、歴代地震計ツアー、屋上展望など